

- ・今回の東日本大震災で被災した家族のビデオやメールの内容を見て、改めて今回の災害で多

くの児が大変な状況下にあることを知った。その中で自分が出来る役割は何かを考えることが出来た。

阿部先生の言葉にもあったように、自分一人で全ての対応やサポートをすることには限界がある。しかし、保護者から求められた時には誠心誠意その方の話を聞き少しでも役に立てるように支える覚悟はある。地震後、安否確認の為自転車で各家庭を訪問した時に、保護者から嬉しそうに「来てくれてありがとう」と言われ関係が深まったことがあった。

毎日の療育の中で保護者が何を感じ、求めているのかを把握して対応していきたい。そして、たんぽぽに通う親子が安心して過ごせる場所にしていきたいと思う。

- ・先生が紹介して下さった方のように、強く、前向きな保護者になるには時間が必要だと思いますが、その為の一步をお母さんの気持ちに寄り添いながらお手伝いしていければと思いました。今回の震災後に、保護者の方から「震災を受けて、通える場所があることの幸せを感じました」と言って頂いていたので、今回の先生のお話と合わせて、改めて地域と係わりながら生活することの大切さを感じました。

- ・阿部先生の研修会に参加させて頂くたびに、受信、発信の大切さを感じます。

お母さん方が、お子さんの姿を受け止め、前向きに進んでいけるように、お母さんの気持ちに寄り添いながら、係わっていききたいと思えます。

・「相手を理解する以前に、まず、相手が自分を理解者と認めてくれる関係を築く」という先生のお話がとても心に残りました。私も日々保護者の方々と係わる中で多々悩むことがあったので、聞き上手になることの大切さを改めて再確認できたように思います。また最後の質疑応答の時間では、他園の様々な悩みを聞きながらとても参考になるお話が聞けて勉強になりました。勉強会で得たことをこれからの療育につなげられるよう頑張りたいと思います。貴重なお話ありがとうございました。

・被災した方と障がい受容の心理的過程が似ているというお話がとても印象的でした。また、ビデオにもあったようにこの震災で障がいのある方の今を知る事ができました。新聞やマスコミでと取り上げられた方はごく一部の方ですが、阿部先生がおっしゃっていたように、我が子を知ってもらうための努力をどれだけしていくかということが大事であることがわかりました。プライバシーをさらけ出し社会に知ってもらうということはとても勇気があることかと思えます。しかし、その先には支え合うことの喜びを感じられるということを日々の母子通園での保護者との係わり合いの中でも意識し、保護者が話しやすい場を作っていけたらと思いました。貴重なお話をありがとうございました。

・今回も先生のお話は、考えさせられることばかりでした。今、自分は子ども達のために母親達のためにそして自分自身のために何をしなければならないのか？難しく考え、明確な答えを見つけるのは時間がかかるかもしれないけれど、ただ漠然と日々の保育に流されるのではなく、工夫したり疑問を持ったり率直に話し合ったりしながら、良いものを作り上げていければいいなと思っています。まずは、自分が楽しむこと。楽しく笑うためにはどんな遊びをするか？よろこぶ子どもたちの顔を見つけていきたいと思います。また、個別支援計画についての質問では、先生の考えをお聞きし、基本的な見方、取り組み方を見直さねばと思いました。しかし、やはり書き方は難しいです……。今回も本当にありがとうございました。

・毎回ホームに通うこと…それはすごい事、とお話にありました。お母さん方と会話をしている、日々の流れや準備等に時間が過ぎてしまい、心から「通い続けて立派ですよ」と思い描いていたかな…と振り返りました。そして人の為、ではなく自分の為にも生き生きと、とお話がありましたが、これからも様々な経験を吸収し、生き生きと過ごし、そこから保育に反映したいと思います。

・“相手が自分を理解者と認めてくれる関係を築く”というお話では、信頼関係の大切さを改めて感じました。そのために心がけることもとても参考になりました。またお母さんへのかかわりを反省したり、振り返る機会となりました。お母さんの質問や思いを聞いた時にはきちんと受け止め、返していくことをこれからも心がけていきたいと思います。各園からの質疑応答は自分の迷っていたこと、悩んでいることでもあったので、先生のお話をお聞きすることができてよかったです。今日のお話を今後の療育に活かすことができればと思います。貴重なお話をありがとうございました。

・先生のお話は何度か聞かせて頂いていますが、いつも先生のお言葉には自分の中には無い考え方や物の見方があり、そうか！と思わされることが多くとても勉強になります。ホーム職員からの質問の中に、病的な保護者への対応に悩んでいるというものがありましたが、私も同じようなことで悩んでいた時期があったので、「勝手な解釈で無責任な対応はせず、ホームに通ってくれているという事実を認めてあげて、一緒に喜びを見つけあげることが大切」という先生のお答えがとても心に染みしました。障がいや心の病を治そうとするのではなく心に寄り添って支えるという、私達職員にとって基本であり大切なことを、改めて考えることが出来ました。本当にありがとうございました。

- いつも保護者の方への対応に緊張して迷うこともあるので、今回のおはなしを今後ぜひ活かしたいと思います。とても参考になりました。まずは、相手をよく見て、感じて寄り添う。そして、相手が自分を理解者と認めてくれる関係を築いていきたいと思います。そのためには、相手の話をとことん聞いて何をどんな風に支えていけばいいかを考えながら係っていきたいと思います。また見えないものはなかなか伝わりにくいですが話を聞くことで「見出す力」も培いたたいと思いました。
- 今回の研修では実際のケースでの話を各園から聞くという形で、それぞれの園でも対応が難しいケースが多いことを感じました。特に、鬱的な傾向のお母さんへの支援には難しさを感じる事が多く、どういう対応をすればいいのか悩むことが多かったのですが、お子さんに対する支援を考えながら、お母さんと一緒にお子さんの良いところを見つけながら、喜びを分かち合っていくことを優先に考えていくというアドバイスをいただき、ハッとしました。今後、お母さんのことも考えつつ、お子さんの支援を中心に考えていきたいと思いました。

たんぼぼで療育を行う時、保護者への対応は私たちにとって永遠のテーマのような気がします。保護者の心の安定が、子どもたちには敏感に伝わります。大人も子どもも、笑顔で過ごすことが出来る場所として、たんぼぼホームはこれからも前進していかなければいけません。先生、これからもアドバイス宜しくお願い致します。

たんぼぼホームの職員になってからまだ一年ほどしか経っていませんが、保護者の方との係わりは本当に難しいと感じていました。阿部先生のお話を聴き、「自分自身が open になる」という言葉が印象的でした。私が保護者の方にしてあげられることは本当に限られていると思います。まずは自分を知ってもらい、保護者の方の辛さ・楽しさを安心して話してもらえるような職員になりたいと思います。

東日本大震災時の障害者の方の話を伺い、胸にこみ上げるものがありました。障害児者の支援について改めて考えさせられました。今私たちに出来ることは何か？を心に刻み、日々係わっていきたいと思います。ありがとうございました。

貴重なお話ありがとうございました。お母さんに寄り添うことの大切さを感じつつも、具体的な対応に色々と悩みがあったので、先生の一つ一つの言葉を振り返りながら支援していけたらと思います。今後ともご指導、宜しくお願い致します。

先生のお話をお聞きし、親御さんから信頼されいつでも相談したいと思われるような療育者になりたいと思いました。先生がおっしゃっていた「体験、経験はその人だけのものだから生きている瞬間を精一杯かかわり合う」という言葉がとても心に残りました。親子が前向きに生きられるよう、勇気をあげられる者となれるように寄り添い、話を聞く者でありたいと思いました。ご講話・ご指導をいただき、本当にありがとうございました。

この震災で私自身もちょっと落ち込んでいました。でも、今回先生のお話にあった石巻のお母さんの前向きな生き方にとっても自分が励まされたました。母は強し！私も見習わなくてはと実感しました。

・阿部先生の勉強会の中で、「甘やかすと甘えさせるとは違うんだ」という言葉がとても印象に残りました。その様な悩みを抱えている親や、甘やかさないようにと対応している親達にお伝えしてあげたい言葉だなと感じました。今、「ショック」や「否認」「悲しみと怒り」の中にある親達に、我が子と共に前向きに考え、暮らしていけるように、丁寧に寄り添っていくことが出来たらいいなと改めて感じました。

・相手を理解する以前に、まず相手が自分を理解者と認めてくれる関係を築くための5つの支援内容や心構えの中でも、特に(2)の「こちらの想いを先に伝えず、相手の心情の言葉に共振しながら発信する。」という内容を念頭におきながら、療育に励んでいきたいと思いました。ありがとうございました。

・保護者の方と話をする時の留意点をお聞きし、悩んでいた事が解決することが出来ました。これからは、母子と過ごす瞬間を大事にしながら聞き上手になれるよう努力し、係わっていききたいと思います。

・障害を受け止めている保護者とそうでない方では距離のとり方や、話す内容、話し方までも注意しながら接しなければならないと気を配っていたつもりですが、日々難しさを感じていました。「わからないことは恥ずかしがらずに聞く」という先生の上手な心の距離のとり方を参考にしながら、安心して接してもらえそうな関係を築いていきたいと思います。ありがとうございました。

・家族と係わり合う折に留意していることのところで、相手を理解する以前に、まず、相手が自分を理解者と認めてくれる関係を築くということが大切ということを改めて感じました。お子さんへの対応やお母さん方との係わりについて悩みながら日々の保育を行っていますが、相手が自分を理解者と認めてくれる関係を築いていくことを心に留めながら、お子さんやお母さん方と係わっていきたいと思いました。こちらの思いを先に伝えるのではなく、母の言葉を使って伝えていくことでより伝わりやすくなっていくということも勉強になりました。各園からの質問や質問に対する答えも保育と重ね合わせながら聞いていましたが、とても参考になりました。ありがとうございました。